



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

2月神殿講話より

村田幸喜先生

立教186年2月月次祭の神殿講話には、本部准員で本部直属満洲眞勇分教会長の村田幸喜先生が登場された(写真左)。講話の一部を要約して紹介する(全文は下記QRコードから動画でご覧ください)。



本部の布教部社会福祉課で課長を務めさせていただいております。先般、表統領先生が「たすけを求め、人に向き合うおたすけ活動」ということに言及され、ておられました。世の中には、ギャンブルやお酒な

どへの依存症をはじめ、精神疾患、発達障害、高齢者の認知症や虐待、子育てに悩む方々への支援など、社会福祉の現場で求められることは非常に多岐にわたっています。

その一方で、私自身も一人の教会長として、地道におたすけを続けてきました。いままさに教祖140年祭の年祭活動が始まったところですが、私は約10年前の教祖130年祭に向かう日々の

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

中で、私自身の大きな事情の節に対して大きなご守護を頂きました。

その喜びを胸に、この10年間で初席者255人、おさづけの理拝戴者65人をお与え頂きました。おちばの御用をさせていただき傍らでにをいがけ・おたすけに通わせていただいているのですが、布教をすればするほど感じることは、親々の時いた種のおかげであるというありがたさです。

村田家は、教祖におたす

YouTube
続きは
本愛大教会
公式チャンネルで

2月神殿講話
村田幸喜氏
本部准員
満洲眞勇分教会長

※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。本愛誌の読者限定で公開している動画ですのでチャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

少年会本愛団 第53回総会

3月21日(祝) 午前10時

内容：おつとめまなび、総会式典、アトラクション(抽選会)
(今年は少年会員が交替で十二下りをつとめます)

けいいただき、今年で161年目になります。この入信のきっかけについて少しお話をさせていただきます、お集まりの皆さんがご自身の信仰の元一日を振り返る機会になればと思います。

3月のこよみ

入社祭・春季霊祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
ほんあいOKEIKO	19日	午前10時
婦人会例会	20日	午前10時
少年会本愛団第53回総会	21日	午前10時
女子青年例会	21日	午前10時
修養科志願者面接	25日	午後1時
本部月次祭 (於 本愛詰所)	26日	午前9時
春の学生おちばがえり (於 本部中庭)	28日	午前10時

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



教祖140年祭活動が始まり、「心定め」という言葉を耳にする機会が増えました。今回はこの「心定め」について考えたいと思います。天理教事典には「人間をたすけたいという親神の思いを理解し、その救済意志に対して、これに応えようとする信仰的誓いと決意の意味」とあります。『おふでさき』には「めへくゝのみのうちよりもしやんして 心さだめて神にもたれよ」(四号43)というお歌があります。

親神様のお心になわなない、案じるとか疑うとか、自分さえ良ければという心をすつきり捨て去って、誠実の心をしっかりと定めて、



親神様に一心にもたれつくようにしなさい、といった意味です(上田嘉成『おふでさき講義』より)。

このほかにも、教祖はいくつかのお歌で「心をさだめる」ということに触られています。いづれも、誠実の心を決めて通ることの重要性をお述べくださっているように思われます。

また「むりにでやうといふでない こゝろさだめつくまでハ」(みかぐらうた九下り目六ツ)というお歌は「よふぼくがそうさせてもらおうと、自分で納得し

て決心のつくまでは」という意味だと解釈されます。一方で、こうした教祖のお言葉の中にある「心定め」と、現代でお道を信仰する私たちが「心定めをしましょう」などと言うときとは、少しニュアンスの違いがあるように思います。この違いは、教祖のお言葉が主にお道の教えを知らない人に対するものであるのに対し、私たちが使う「心定め」は、すでに教えを知っている人がさらに何か信仰的な目標を定めるときに使うからではないでしょうか。

自ら納得し自ら決心する

とはいえ、先人の先生方はこの「心定め」をとでも大切にしておられました。『稿本天理教祖伝逸話篇』36「定めた心」には、増井りん先生が「たとい火の中水の中でも」一家でお道を通る心定めをした話がありま

すし、他にも、おつとめでもご守護をお見せいただけなかったときには「本人の心定め一つや」と教祖からお聞かせいただいたという話も伝わっています。

もちろん、本愛の先生方も同じようにさまざまなか心定めをして通られました。古い先生に聞いた話で、水ごりをしていたある人に安藤正吉・初代会長様は「水の恩が重なる」とおっしゃったそうです。そのため、その先生は水が無駄にしないよう、大きな桶に溜めた、凍った水にじつと浸かってお願いをしたと聞きました。

なにもそこまでしなくても、いいかもしれません、ただ漫然と、なんとなく信仰するのではなく、「これをさせてもらおう」と自ら納得して、自分にできることを心に決めて通ることは、今の旬に最も必要なことではないかと感じます。

連載の内容を YouTube でご覧いただけます！

今回の連載の内容を動画でも配信中！
『本愛誌』連載企画と一緒にご覧いただくと、
より理解が深まります！



チャンネル登録

教理随想

言わん言えんの理を探る



桜の花は咲いている時期が短く、それが儂さや潔さに通じるところから、多くのの人々に愛され続けてきました。大教会華洲館の桜も、開花から数日の内に満開を迎え、それが過ぎれば葉桜へと趣を変えます。もともと桜は、花ばかりでなく新緑の息吹にも力強さを感じさせるし、秋には鮮やかな紅葉の彩りも見せます。いずれにしてもこれからの時期は、花々が一年で最も美しく咲き揃い、緑の新芽が勢よく伸び盛る季節を迎えます。

広大な植物園や花畑を訪れる人々は、咲いている花の美しさや見事さばかりに目を奪われますが、花をきれいに咲き続けさせようと手入れや丹精に当てる人は、いつも幹や根を見つけているに違いありません。

おさしづに、
：枝という、花という、俄に風吹けば散る。元は散らぬ。元より出ぬ物はな
い。

(明治22年10月10日)

と教えられます。花のつき具合が悪かったり、葉の色合いに異常を感じた時は、誰しも根に関心を寄せ、水や肥料のことを第一に考えるでしょう。人間もこれとまったく同じであることをこのおさしづでは教えられ

ています。つまり目に見える部分の身上や事情に動揺するのは、人として仕方のないことではあるが、それだけではいけない、との仰せで、身上や事情をきつかけとして、人間創造の元へ心を寄せる努力を急ぎ込んでおられるのです。けれども、みかぐらうたに、

よろづよのせかい一れつ
みはらせど、むねのわ
りたものはない

そのはずやといてきかしたことハない しらぬが
みりてハないわいな
と仰せられるように、元初まりの真実を知らないのが人間でありました。そこで約束の年限の到来を待つて、親神様がこの世の表に現れ出られ、教祖の口と筆を通

してよろづ委細の真実を説き明かされたのがこの道の教えであります。

命の元は十全の守護

花が咲き、枝が伸びるエネルギーの元が根に存在するように、人間が生きている命の元は、ぢばにお鎮まりくださる親神様の十全の守護にあります。そして人間創造の元初まりの働きを、手振りに現して教えられたのがかぐらつとめで、教会の月次祭のおつとめは、すべてかぐらつとめの理を受けてつとめられるのですから、教会のおつとめに真実を尽くすことは、取りも直さず親神様のご守護の元へ心を寄せることになります。これを疎かにして、真のたすかりはないことを心しなくてはなりません。

このつとめこれがこのよのはぢまりや、これさいかのた事であるなら
(十五―29)

このおうたの意味を噛みしめて、私たちの命の元が、親神様のご守護にあることを今一度、思い起こしましょう。そしておつとめこそ、元初まりの守護を今に頂戴する根本の手立てであり、あるゆる困難から救うたたく道であることを胸に刻み直し、教祖百四十年祭へ向けて、月次祭のおつとめを真剣につとめる決意を新たにしたいと思います。

桜の花はいつしか散り、季節は陽春から初夏へと少しづつ移ろいでいきます。しかし元にさえ根差していれば、桜はまた新たなエネルギーを吸収し、来春には花を咲かせて多くのの人々に喜びと感動を与えることでしょう。元につながり、元に根差す努力が何よりも肝

【第 99 回】

おつとめは人間創造の元につながるたすけ一条の道

この事をなをたのむと
をもうかな つとめぢ
よの事ばかりやで

(十五―28)

腎であります。

教人登録者

(令和4年12月24日付)

本孝徳 上野勇一郎
以上1名

1月のおさづけの理拝戴者

直轄 村井 隆浩
本心(本孝心)瀧 健一朗
以上2名

1月の初席者

直轄 李 秀賢
本仁愛 磯村 唯衣
本海部 大森 清矢
" 安井 和生
本今村 山田菜々佳
以上5名

本土佐分教会初代会長

山田よしゑ之霊の三十年祭

本土佐分教会では2月5

日午前11時より、初代会

長・山田よしゑ之霊の三十

年祭が同分教会で行われ

お出直し

佐藤利男氏(本愛慶心教会
初代会長)

1月26日に出直された。
享年84歳。告別式は2月7
日台北市内にて大教会長を
齋主として執り行われた。

おちばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう

第982期

修養科生大募集

《集合・面接》 ☆日時…3月25日 午後1時 ☆場所…本愛詰所

※3月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

大教会日誌

令和5年1月25日～令和5年2月24日

1月

26日 本部春季大祭

13日 月次祭

31日 常任役員会議◇役員会議

祭主・大教会長 扨者・大橋進、吉田克義

2月

指図方・安藤正二郎 賛者・塚原光男、野田正樹

1日 入社祭

◇神殿講話一村田幸喜先生

祭主・大教会長 扨者・桑子保、山神茂彦

◇大教会長挨拶

指図方・野田正道 賛者・津田豊郎、鈴木真也

青年会例会

◇祭典講話一大教会前会長

14日 布教実修所

2日 よふき会例会

16日 むつみ会例会

おつとめ・十二下りてをどり

17日 こども食堂MOGU (参加者63人)

11日 女子青年例会

19日 ほんあいOKEIKO (参加者15人)

12日 常任役員会議

20日 婦人会例会